

第1部会

【安心して生み・育て・暮らせるまちを創る】

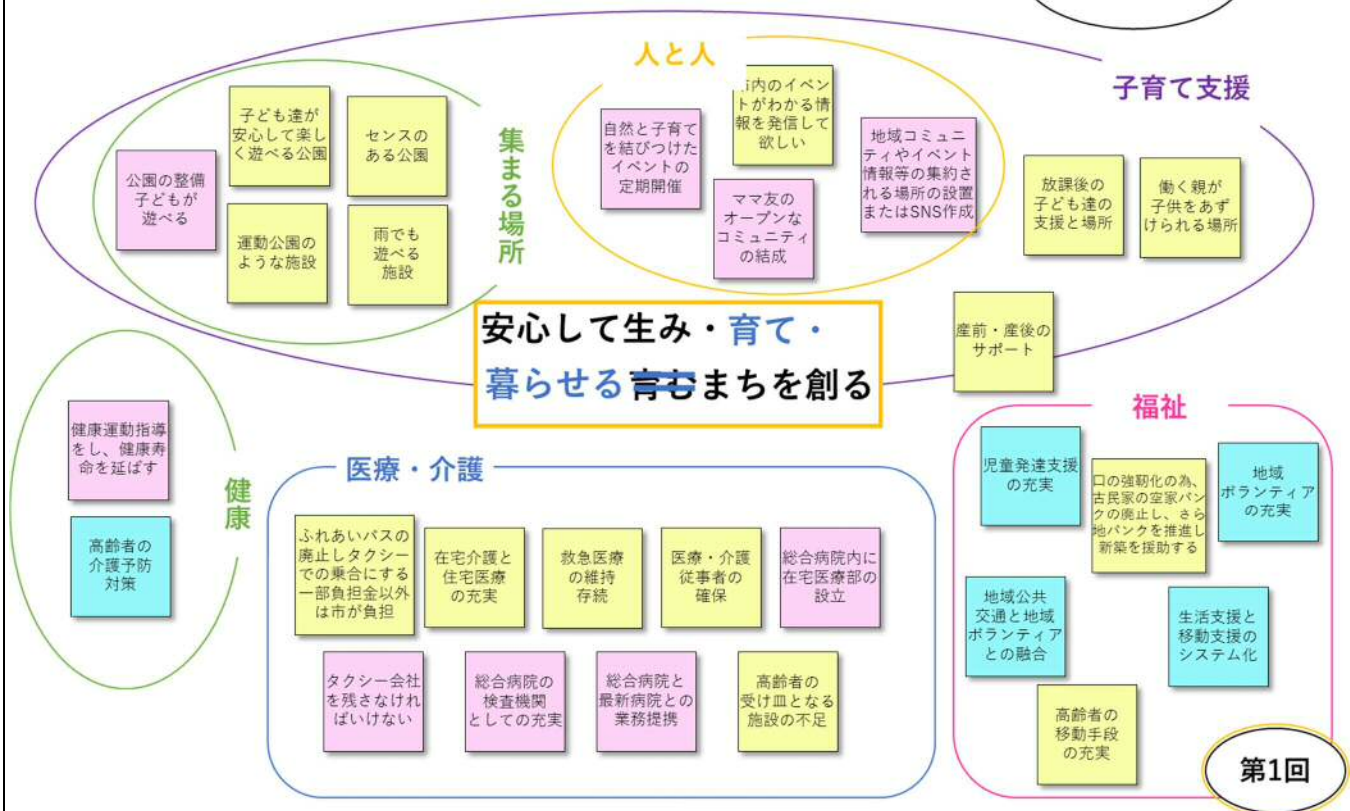
討議の概要

- ・子育て支援として大きく、「人と人」を結び付けることと、子育てに携わる人々が「集まる場所」を創ることが必要といった意見が出ました。「人と人」を結び付けるということについては、人同士が結びつくために、そのためにママ友が集まり、繋がりをつくる場所や、イベントやコミュニティといった情報の集約する場所が必要ではないかと言った内容が議論されました。「集まる場所」については、雨でも遊べる施設やセンスのある公園を作るために、既存の公園を整備するといったご意見が見られました。そのほかにも放課後や、働く親が子どもたちを預けられる場所づくりが必要という意見がありました。
- ・健康に関しては、「健康寿命の増進」が重要とされました。
- ・福祉については、様々な意見がありましたが、特に高齢者の増加している現状に対し、地域の公共交通などの体系を考える必要があるとされました。また、公共交通の手段については、コミュニティバスではなく、デマンド型タクシー導入の方が良いのではといった意見がありました。
- ・医療についても様々な意見がありましたが、特に「救急医療体制」に視点が当てられ、現在尾鷲にある救急医療のシステムを存続させていくために、医療従事者の確保が必要といった意見がありました。また、高齢化などの現状を受けて、医療体制の工夫による「地域包括ケア」の充実や広域連携の構築、医療器具の更新などが重要といった意見が挙がりました。

<まちの将来像>

住みたいまち 住み続けたいまち おわせ

前期基本計画5年



第2部会

【安全で快適に暮らせるまちを創る】

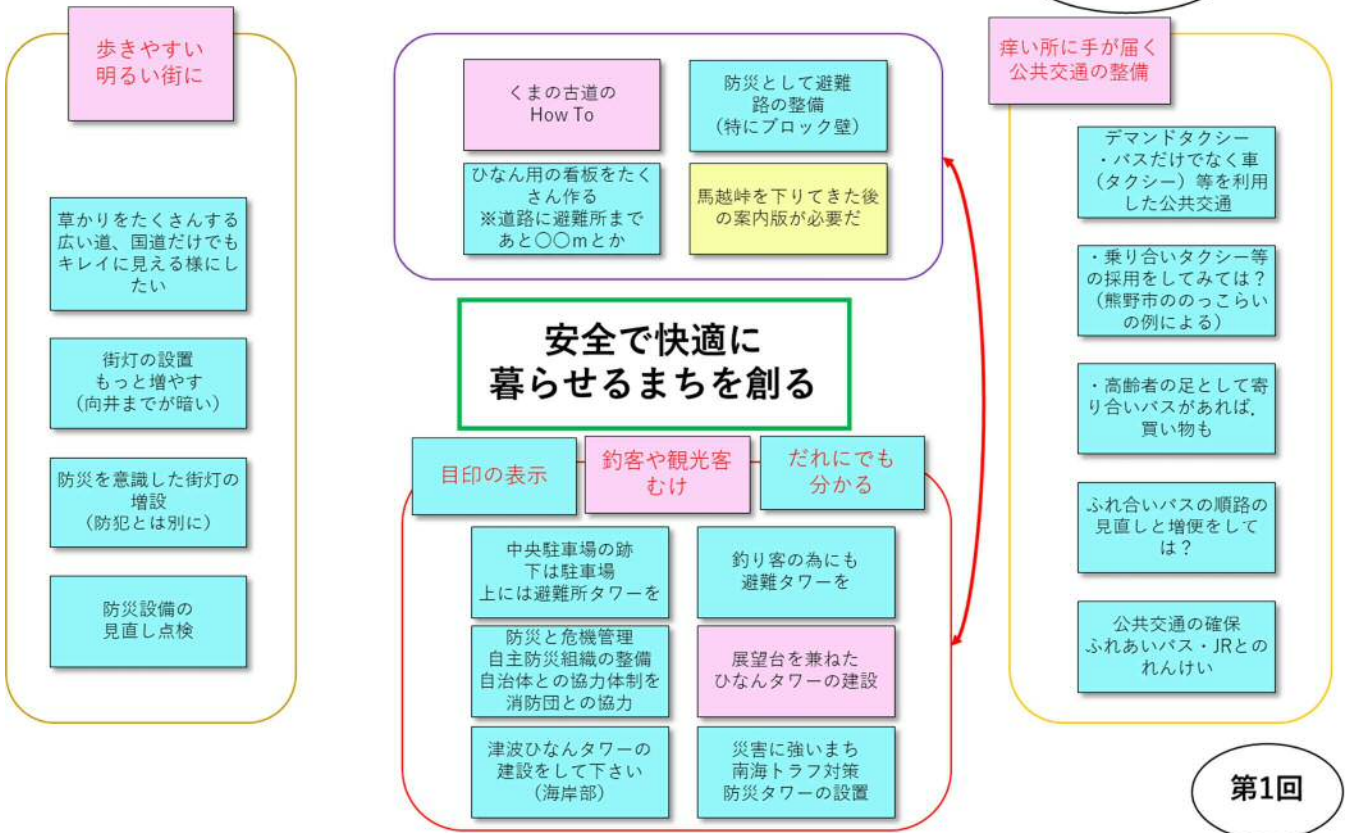
討議の概要

- ・市内外の人にとって、誰にでもわかる避難の目印・環境を作ることが必要ではないかとされ、その一つのアイデアとして、「避難タワー」の建設といったことが挙げられました。現在の状態では、災害の際どこに逃げたらいいかなどがわかりにくいといった意見が多かったということから、その改善の意見が多く挙げられています。
- ・「痒いところに手が届く、公共交通機関の整備」と題し、現在ある乗合バスに対し、増便やルートなどの検討や、乗合タクシーやデマンド型タクシーにしたほうが良いのではないかなど、公共交通のより便利な形への検討・ブラッシュアップが必要ではないかといった意見が挙げられました。
- ・まちの整備に対しては「歩きやすい明るいまち」にしようといった意見があり、こまめな草刈りや街灯を増やすことによって、明るく、防犯面でも優れた街にしてほしいといった意見がありました。
- ・防災の面については、自治会でされている自主防災の備品点検などを行い、住民一人一人にさらに防災意識を高めてもらう必要があるのではないかとといった意見が挙がりました。

＜まちの将来像＞

住みたいまち 住み続けたいまち おわせ

前期基本
計画5年



第1回

第3部会

【人々が集い、活力溢れるまちを創る】

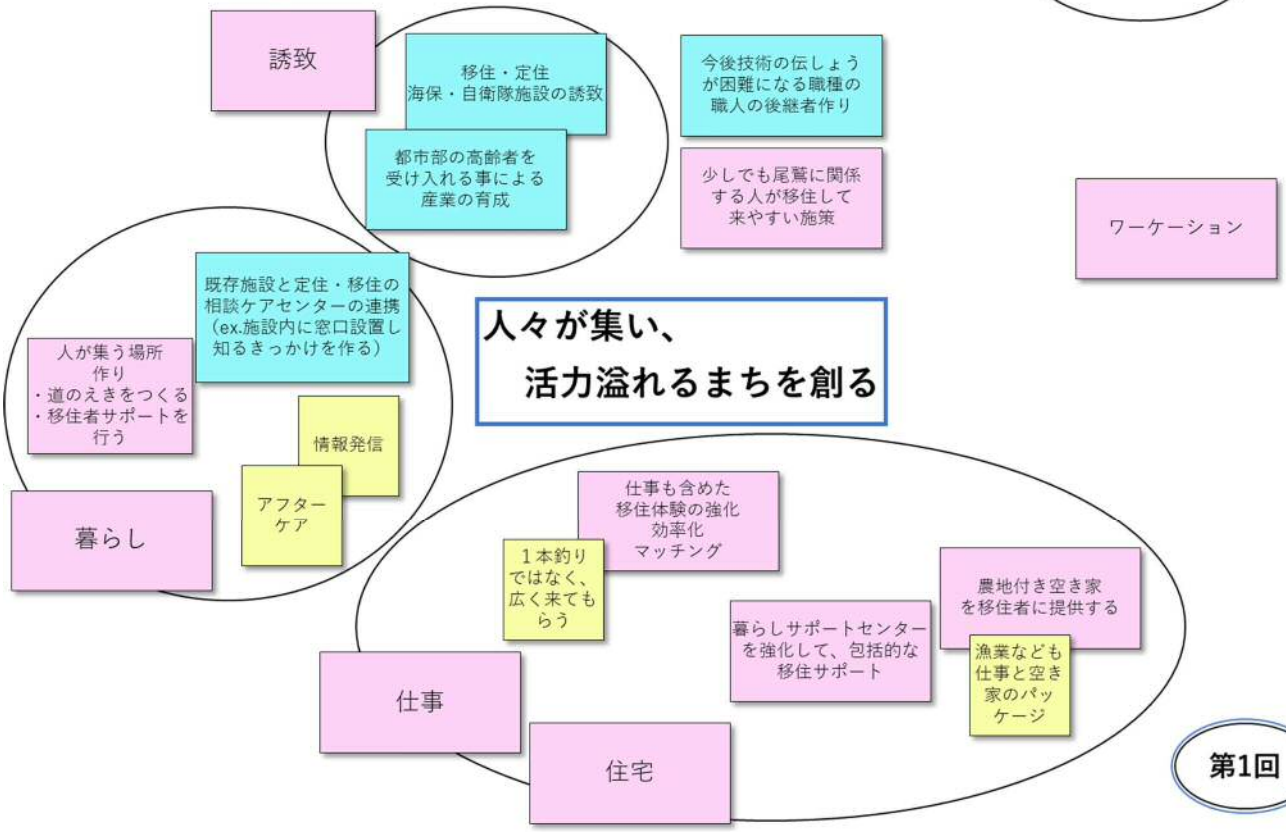
討議の
概要

- ・議論では特に移住定住の話が多く、移住定住に対し、農林・水産などの仕事の話が絡められないかといった話があり、空き家バンク等の移住定住策に、農地をつけたりするなど、仕事と住宅をセットにした移住定住策アイデアの意見がありました。
- ・産業の振興の案として、大企業の誘致や自衛隊の誘致などを行い、大きな人の流れ・雇用を生み出していくことが必要ではないかといった意見がありました。
- ・尾鷲に移住してきたいという中には、仕事がないといった方も多く、そのような方への支援・サポートをさらに充実させると言ったことと、一方で、尾鷲にも手は足りていない・人手が欲しいところが沢山あるといったことから、移住定住を取り扱う機関と、ハローワークなどの仕事を取り扱う機関の連携を強化し、仕事と暮らしを繋げていく視点が必要とされました。
- ・また、単に移住定住をまでを支援するのではなく、その後の近所関係・繋がりづくりのアフターケアを充実させ、移住者の居場所づくりをしていく必要があるとされ、移住を定住に繋げることが重要とされました。
- ・このようなコロナ禍でのテレワークなどの自由な仕事の仕方が浸透してきた今だからこそ、ワーケーションといったことも、視野に入れる必要があるのではないかといった意見がありました。
- ・以上のようなことは何年も前から尾鷲では取り組まれてきたことであるということから、今後は特別な何かを始めるということではなく、これまでやってきた取り組みをさらに工夫し、効果を向上させていくことが重要とされました。

＜まちの将来像＞

住みたいまち 住み続けたいまち おわせ

前期基本
計画5年



第1回

第4部会

【郷土を愛し、学び・伝えるまちを創る】

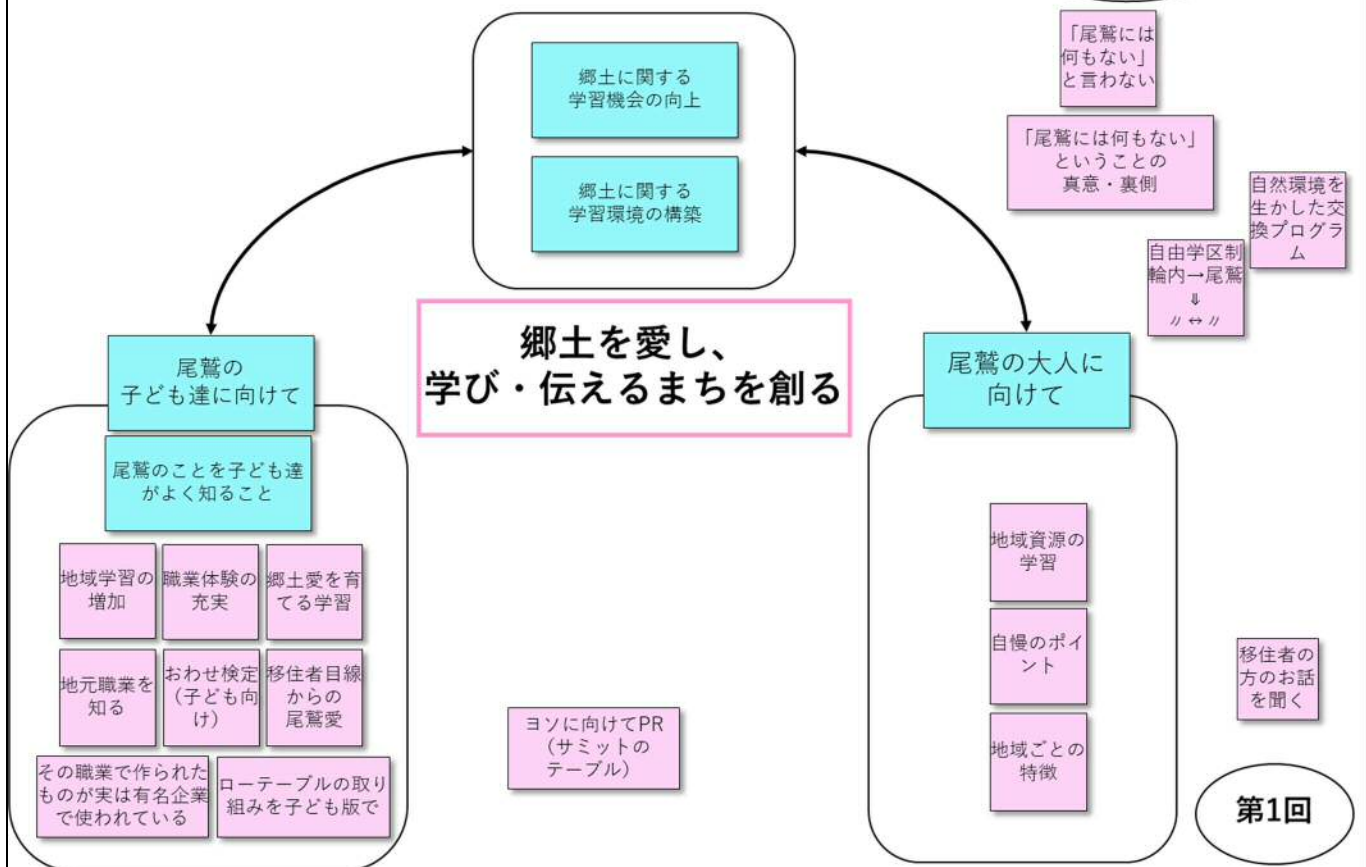
討議の概要

- ・今後5年間については、郷土を学ぶことに力を入れ、特に子どもたちが郷土のことを学ぶ機会を増やしていくべきことが重要とされました。その過程で子供だけではなく、親にも新たな郷土の魅力に気づいてもらえるのではないかといいことが期待されています。
- ・大人の方から、尾鷲は何もないといった声が聞かれる中で、その声を聞いた子供たちも「尾鷲は何もない」と思ってしまうことに繋がってしまう危惧があることから、大人の人にも尾鷲の魅力を再度認識してもらうような機会があったほうが良いといった意見が挙がりました。
- ・具体的なアイデアとしては、「自由学区制」のような、学区に囚われず自身が学びたいと思うところで学ぶことや、漁業などの産業従事者や、尾鷲が好きで、尾鷲に移住をしてこられた方の話を直接聞ける機会をあらゆる場所で作っていくことが良いのではないかといいアイデアの意見がありました
- ・尾鷲には熊野古道伊勢路をはじめとした非常に魅力的な場所が多いですが、その魅力を自身たちがわかっていなかったという反省も込めて、子供たちがさらに郷土を愛せるような機会を設けていきたいといった意見となりました。

＜まちの将来像＞

住みたいまち 住み続けたいまち おわせ

前期基本
計画5年



第5部会

【健全で次世代に繋ぐまちを創る】

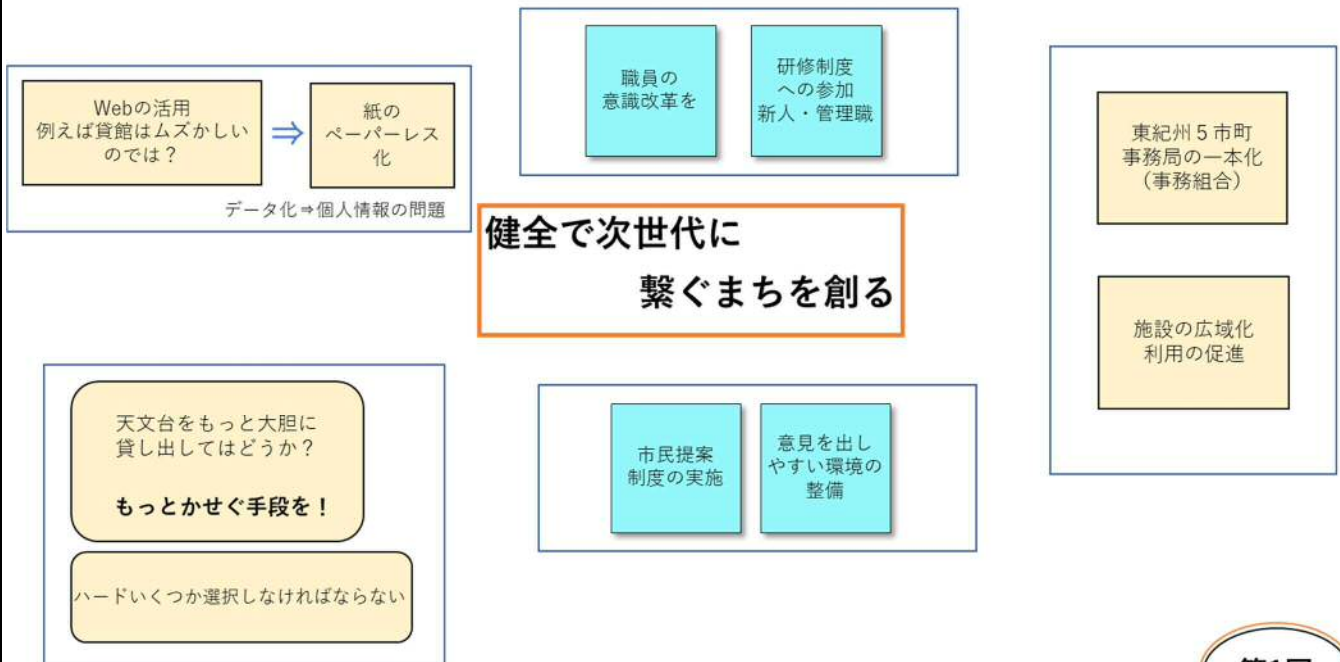
討議の
概要

- ・人口減少が続く中で、健全な財政を作ることが必要といった議論となり、そのために「東紀州5市町事務局の一本化」と題して、5市町の施設を利用しあうことや事務局を一本化することにより、効率的かつ費用を抑えることのできる広域的な連携を推進するべきといったご意見がありました。
- ・歳入増加の視点から、現在ある天文台などの既存施設を活用・貸出し、今あるものでお金を稼ぐことはできないかといったアイデアが挙げられました。
- ・コロナ禍で一気にZOOMなどのネット・ITの使用が促進されるようになったことを受けて、この尾鷲でも「DX（デジタルトランスフォーメーション）」といった、デジタル技術が及ぼすペーパーレス化や生活の利便性向上を進めていくべきといった意見が挙がりました。
- ・行政のことについては、単に制度や体制だけの構築ではなく、行政職員の意識向上・意識改革も合わせて行うことによって、職員自身がサービス向上や財政の改革などに意識を向けていってくれるのではないかとといった意見が挙がりました。
- ・今後は、市民の行政参加の視点のもと市民が意見を言う場を設け、また市役所内でもそのようにまちを良いものにするために意見を出し合えるようにしていくべきだといった、今後重要とされる方向性の意見がありました。

<まちの将来像>

住みたいまち 住み続けたいまち おわせ

前期基本
計画5年



第1回

【岩崎会長による、ワーキングに対する総評】

もう時間が過ぎていきますのでごくごく簡単にコメントさせていただきたいと思います。5つの班の皆さんごくろうさまでした。ありがとうございます。5年後を見据えて、5年間何をやるかということですので、少し今までとは違って考えやすかったんじゃないか、という気もします。ただ、この5年間でやっぱりとんでもなく変わっていくんじゃないかっていうことを皆さん思っていることは確かなんだなと思います。5班もそうですけれど、要するにDXでデジタルトランスフォーメーションはどこまで進展していくのか。それがこのコロナでどんどん加速している、ペーパーレス、それからファミコン世代が50代まで来たというわけだから、あともう少ししたら、あと10年もすれば確実にみんなパソコン使っちゃっているという。そういう世界があるという瀬戸際まで来たというわけですね。そういう中でも、コロナ禍が一方では、移住定住を促進しているという感じはあります。ですから、それを受けて3班の方でも移住定住を中心にお話になって、しかもそれが確実に今、尾鷲は実績が出ていますよね。つい数日前に知事も「人口比で言うとこの尾鷲地域が一番移住定住する移住人口が多いんだ。」というような話をされていましたが、そうすると、その時の暮らしのアフターケアまでも見据えた移住定住策を打って出ようじゃないかというのはすごく魅力的な話だし、そして、それを受けるようなかたちで4班の方で「郷土の学習機会をきっちりと作りましょう」というのも、これも子どもの愛郷心の話がありましたから、非常に、移住定住もそうだし、子ども達をどういう風に育てていくか。これが多分尾鷲らしさを生むことになるだろうという風に思いますし、やっぱり、この5年の間、今後の5年というのをすごく時流の流れは速いんだけど、その時に尾鷲の良さをさらに活かしていくような形で事業展開を考えていく、その今日第一回目だろうと思います。恐らくこれからもっと、この会議、分科会を重ねていただいて、そして尾鷲らしい、しかし時流をちゃんと捉えた5年間でやるべき事業というものを是非皆さん、ご提案をいただくことを期待していますし、今色々と言えることって沢山あるんじゃないかなという気がしています。良い方向に向いていることを僕は、尾鷲は確かだろうと思っています。人口は残念ながら日本全体では減っていく訳ですから尾鷲だけが増えることは考えられないんですけども。ただ、尾鷲の有利な条件、一定の職があり一定の自然がある。そして、一定の人情があって、そしてその中で入ってくる人がいる、育っていく子供がいる。そして、きっちりと憂えることなく年を取っていくことができる。そういうまちがこの5年の間に実現していく。そのために何をやればよいのかということ、回を重ねて検討していただければというふうに思っています。今日は本当にごくろうさまでした。ありがとうございます。